



スキー教室 ありがとうございました。

2月3日(木)の午前中に、下学年(1年生から3年生)のスキー教室が祇園山で行われました。先週の一斉メールでお伝えしましたように、感染症拡大防止のため「スノーフェスタ」を中止しましたので、今年のスキー教室はこれで全て終了しました。各学年とも、

高瀬小学校だけの貸し切り状態で2回(下学年…五輪坂スキー場 上学年…大平スキー場と、祇園山1回ずつ)行うことができました。当日のスキー指導・補助とスキー運搬のご協力をいただきました保護者の皆様、本当にありがとうございました。子どもたちにとって貴重な時間となりました。今後も何卒よろしくお願いたします。



学校支援ボランティア⑤

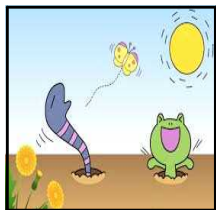
2月1日(火)の5年生の家庭科(ミシン作業)に、「学校支援ボランティア」として藤原イツさん、土田あさ子さん、加藤栄子さん、今野定行さんに来ていただきました。昨年の6年生のミシンにも来ていただきましたので、これ

で2回目ということになります。慣れない作業で子どもたちの顔に困り感が出ていると、ずっとそばに寄り添って支援していただきました。子どもたちも安堵の表情を浮かべておりました。本当にありがとうございました。今年度はこれが最後の「学校支援ボランティア」ということになりましたが、ここまでのべ28名の地域の方々に支援していただきました。地域の皆さんと触れ合い、思いを受け取った子どもたちの表情は、一様に安心感にあふれていると感じました。来年度もまたご協力を、何卒よろしくお願いたします。



全校集会 (2月)

始業式で、短い3学期の過ごし方ということをお話しましたが、やっていますか？まさか忘れてしまった人はいないですね。確認を含めて、これから二つのお話をします。一つ目は…まずは、この写真を見てください。誰だかわかりますか？「カエル」の詩をたくさん作った「草野心平」という人です。2学期に「草野心平」さんの「春のうた」という詩が、4年生の教室に掲示されているのを見ました。(4年生はもちろん覚えているよね) そのときの詩が印象的でした。読んでみますので聞いてください。

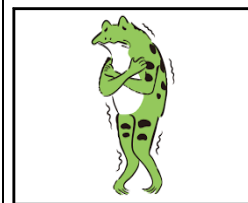


「春のうた」
かえるは冬のあいだは土の中にいて春になると地上に出てきます。そのはじめての日のうた。
ほっ まぶしいな。／ほっ うれしいな。／みずは つるつる。／かぜは そよそよ。／
ケルルン クック。／ああいにおいだ。／ケルルン クック。／ほっ いぬのふぐりがさいて
いる。／ほっ おおきなくもがうごいてくる。／ケルルン クック。／ケルルン クック。

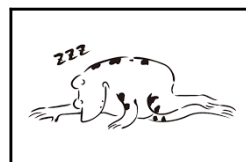
どうですか。この詩からどんなことを感じましたか？この詩の主人公は、もちろん、カエルです。冬眠していたカエルが、春になると地上に出てきます。その初めて出てきた日のうたです。春のキラキラした水や風の感触・花のにおいや雲の動きなどを、めいっばい楽しんでいるカエルの姿が伝わってきませんか。新しい出発の時の「命の喜び」を、うたっているように感じませんか。春になって、めいっばい喜びを爆発させるカエルたちですが、なぜこんなにも嬉しいのでしょうか。同じく、草野心平さんの詩に「秋の夜の会話」というのがありますので、紹介します。聞いてください。

「秋の夜の会話」

さむいね／ああさむいね／虫がいないね／ああ虫がいないね /もうすぐ土の中だね／土の中はいやだね／痩せたね／君もずぶん痩せたね／どこが こんなに切ないだらうね／腹だらうかね／腹とったら死ぬだらうね／死にたくはないね /さむいね
／ああ虫がいないね



どうですか？今度はちょっと、寂しく悲しい詩ですね。なぜ、こんなに寂しく悲しい感じになるかと言えば…そう…季節は、秋から冬に向かうところ、食べ物もなくなり、だんだんと寒くなっていくからです。「春のうた」と違って「命の喜び」は感じられませんよね。カエルは人間と違って、体温がいつも同じではありません。暑いときには体温は高くなるし、寒いときにはどんどん低くなっていきます。周りの気温によって、自分の体温も変化してしまうんですね。人間は、ストーブや服、ジャンパーなどで、冬をしのぐことができますが、カエルはそうはいきません。「さむいね」「ああさむいね」…という最初のカエルのセリフは、何気ない会話のように聞こえますが、本当は、人間の何倍も寒さが身に沁みた厳しい言葉なんですね。このまま何もしなければ、カエルたちは、寒くて死んでしまうことなのでしょう。春の喜びを味わうために、それでは、カエルはどうするのか。…冬を乗り切る“準備”をするのです。どんな“準備”かと言えば…「冬眠」です。冬眠で春が来るのを、じっと待つのです。日ざしが暖かくなり、地面に踊り出す日を夢みて、カエルは春を目指して、「眠る」という“準備”をするのです。「短い3学期の過ごし方」…なぜこのカエルの話をしたのか、もうわかりましたね…



思い出しましたね…。一つ目の過ごし方は…「新しい学年に向けて準備をする」でした。心配なく来年の春を迎えることができるように、今、みなさんもカエルのように、“準備”をしていきましょう。ちなみに、草野心平さんの詩には、「冬眠」という詩もありますので、それも紹介しておきますね。

「冬眠」

おもしろいですよね。カエルが冬眠して、じっと縮こまっている様子を、とてもよく表現していると思いませんか。「世界で最も短い詩」とも言われています。それでは、「短い3学期の過ごし方」二つ目は、なんだったのでしょうか。(もちろん、ここまでのところで、思い出していましたよね。) わからない人のために、福岡県の「宝満山(ほうまんざん)」という山にいる“ヒキガエル”を紹介します。【映像】スタート→“ヒキガエル”の姿から、みなさんは、何を感じましたか。池で生まれた1cmのカエルが、829mの宝満山の頂上を目指して、2.5kmの距離を40日かけて、ひたすら登るということでした。どんな目標があるのでしょうか。よくわかっていないようですが、目標に向かって頑張るカエルを応援したくなりますよね。「短い3学期の過ごし方」の二つ目…もうわかりましたよね。…準備するための「目標をもつ」でしたよね。

始業式が終わってから、各学級で、3学期の目標を立てたことでしょうか。今日から2月ですが、さてここまで、自分の目標に向かってどのように取り組んできたのでしょうか。みなさんの目標は、カエルのように、周りの人に応援してもらえそうですか。目標を成し遂げるためには、普通に生活していたのではダメですね。必ずやり遂げるんだという“強い気持ち”が必要なんだと思います。それを見事に成し遂げている、“ヒキガエル”を思い出しながら、皆さんも負けずに頑張ってください。まだやれます！“すばらしい春”“すばらしい次の学年”に向けて、「目標をしっかり決めて、準備する」ということを、これからもがんばっていきましょう！

